

令和8年5月19日

和たぐ新聞・母父神社

Watag eXtensible Markup Language

和が國再興

かか とと

母父神社

緊急事態発生

宮司へのへのもへじは
こんな古民家に住んで
自身の歌を
暢気に歌ってゐた



へノヘノモヘジ

そこに緊急事態が発生

「もへじ」に こんな要請文が届いた

この世に 再び戦の嵐が吹き荒れる
宮司「もへじ」は 有事に備へて
古民家を平和司令塔に改めよ



平和司令塔

そこで「もへじ」は
急いで 平和司令塔に改めた



したがって 平和司令塔は

ほっこり
ほっこり
とことん
湯高

十井の三和字
くぬぎの手紙

発行 づるばみ
郵便 四三八一〇〇八六
住所 磐田市見付二七八六
電話 〇五三八一三三三〇二七三
F X 〇五三八一三一五〇〇三
通信 logos@nvtb.biglobe.net
編集 岩田修良
カナ アリ@ ドレスドット

母父神社を読む

母 (かか)
父 (とと)
示 (木と葉)
申 (申す)
社 (やしろ)



母 (かか) の木と葉
庭の精... ほっこり
葉 ... とことん
父 (とと) の木と葉
隣の様... ほっこり
葉 ... 湯高

示 ハトニ

全国の母父に告ぐ

母 (かか) さまには
庭を
父 (とと) さまには
隣や飛地を
それぞれ 守ってもらふやう
上手く配置したのだが 今では
すっかりその配置も崩れてしまった
しかし 奇跡的に磐田市に
母父の木々を庭と隣に
植ゑてゐる家があった
自宅と塾である たった二カ所の木々だが
元氣よく
諸君の木と葉を鳴らせていただきたい
宮司の「もへじ」は
さう 母父の木々に通達した

庭王 母さま

和が『庭王』の母さまは かう言った

わかりました
父さまにも その旨伝へて 大聲で
自身の木と葉を鳴らすやうにします
しかし 宮司さま
これで平和が得られたら
私たちを 大昔のやうに
心地良き場所に植ゑるやう
和が国の民に伝へていただけますか
宮司もへじは 快くうなづいた

よって
令和八年（二〇二六）五月十八日より
数こそ少なけれ
母父（かかとと）の木と葉が
一斉に大聲で歌ひ始めた

母父の木と葉



ほっこり
（庭の母さま）

とことん

ほっこり
（隣の父さま）

湯高



ほっこり
（庭の母さま）

とことん

ほっこり
（隣の父さま）

湯高



こんな伝承歌が：

だから 昔は こんな伝承歌があった

庭に精（あべまき）
隣は樫（くぬぎ）



平和（昔）

平和 十 口 ハ 二一ノハ

|| 二二二二シノ こと、葉

|| 二二二二ハ 鶴の 木と 葉

|| 二二二二ハ 鶴の 木と 葉

|| 二二二二ハ 鶴の 木と 葉

|| 二二二二ハ 鶴の 木と 葉

|| 二二二二ハ 鶴の 木と 葉

|| 二二二二ハ 鶴の 木と 葉

|| 二二二二ハ 鶴の 木と 葉

|| 二二二二ハ 鶴の 木と 葉

|| 二二二二ハ 鶴の 木と 葉

|| 二二二二ハ 鶴の 木と 葉

|| 二二二二ハ 鶴の 木と 葉

|| 二二二二ハ 鶴の 木と 葉

|| 二二二二ハ 鶴の 木と 葉

|| 二二二二ハ 鶴の 木と 葉

|| 二二二二ハ 鶴の 木と 葉

|| 二二二二ハ 鶴の 木と 葉

二個庭くぬぎ

くぬぎ二種有り

西に自生するくぬぎ(精)
東に自生するくぬぎ(櫨)

ところが：

精||日ハ、王木

||庭の王木

よって

二個庭くぬぎとは…

庭に精(母さま)

隣は櫨(父さま)…③

精：ちよつと弱々しい(母さま)

櫨：頑固な木(父さま)

平和の木と葉

平和||二個庭鶴の木と葉

||二個庭くぬぎの木と葉



ほっこり (庭の母さま)

とことん

ほっこり (隣の父さま)

湯高

天地之詞

- 一 雲霧
- 二 室苔
- 三 人犬
- 四 上末
- 五 由王さる
- 六 遠不世与
- 七 江乃於
- 八 奈禮居天

鬼は赤鬼のみ



禍津日神
真つ赤な嘘月
禍の火種



青鬼 (挨拶語)



赤子の青鬼 (挨拶語)

なるほど

昔の国旗には

下段で紹介したやうに

かつての大和朝廷が

退治した蝦夷の『赤鬼』はゐない

『青鬼』と疑はれた紺も

『赤子の青鬼』と思はれた日輪も

紺 日輪とか

紺地 輪といふ

挨拶語になって 流布して行つたが

赤鬼の「真つ赤な嘘月」は

どのやうに語り継がれたのだらうか

宮司の「もへじ」は

文献を探して

和が国の赤鬼伝承を調べてみた

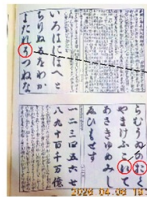
国宝『清水寺縁起』



異体字で伝承した
江戸時代

異体字

ろろね



オコニ乃和
えソニ和

コニ乃和字
ニ和

異体字ニ鬼は『蝦夷』



今日は



紺



日輪

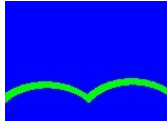


輪



紺地

こんちわ!



ほっこり
ほっこり

天||し||二||一||ハ
 ||し||し||ノ||目
 ||二||二||二||二||の||眼
 ||十||ハ||こ||り||の||眼
 ||ホ||こ||り||の||眼
 ||ほ||っ||こ||り||の||眼

地||し||ノ||二||ノ||十
 ||し||し||の||メ
 ||二||二||二||二||の||眼
 ||十||ハ||こ||り||の||眼
 ||ホ||こ||り||の||眼
 ||ほ||っ||こ||り||の||眼

天地之詞



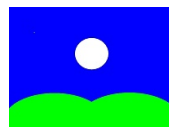
詞||二||二||ロ
 ||ト||こ||二||二
 ||と||こ||と||ん
 ||と||こ||と||ん
 ||と||こ||と||ん
 湯高



湯高
とことん

天||ほ||っ||こ||り||の||眼
 地||ほ||っ||こ||り||の||眼
 之||へ||ノ||二||へ||山||の||姿||詞
 ||山||の||二
 ||山||山

天地之詞



ほっこり
ほっこり
とことん
湯高

天地之詞

天地之詞

天 太陽

|| ほっこり

地 青空

|| ほっこり

之 うへ

|| 上

|| 高天が原

|| とことん湯高



ほっこり 太陽
ほっこり 青空
とことん 高天
湯高が原

和訳開始 雲霧 一

雲霧

雲斬り

雲 雨 云

|| 天 し、二

|| 天 しし

|| 天 二二二二二

|| 天 十八こり

|| 天 ホこり

|| 天 ほっこり



ほっこり

室苔 二

室 ヲラゾラ

|| アラゾラ

|| 青空

苔 ヲロム十

|| 二二ツ二二 和

|| 十ハツこり 和

|| ホツこり 和

|| ほっこり



ほっこり 太陽
ほっこり 青空
とことん湯高 高天が原



人犬 三

人 眉の姿詞

人 しノし

|| 四の始

|| ほっこり



犬 二ハ、大

|| 庭、王

精 日ハ、王木

|| 庭 の王木

犬 庭の精



ほっこり



ほっこり

- 上 11 二
- || 四 二
- ほっこり 四の始
- ほっこり 四二
- とことん 四詩の三
- 湯高 真字の二話
- 末 11 二ハ
- || 二 二リノシ
- || トナリの鶴
- || 隣 の鶴
- || 隣 の棟



上末 二



とことん

- 由王 11 よし・一三
- || 四 詩・ノ三
- ほっこり 四の始
- ほっこり 四二
- とことん 四詩の三
- 湯高
- 由王 11 二・一ロ十
- || 十 一・一ロハ
- || 二 二二二・色葉
- || 二 二二二・色葉
- || 二 二八二十・色葉
- || 庭 王・色葉

由王

さる

- さる 11 しろ、いろ十
- || 二 二白、色葉
- || リン 棟、色葉
- || 隣 棟、色葉
- 白 11 どんぐり (姿詞)
- || つる はみ (和名)
- || 棟 (俗称)
- さる 11 目し、十
- || まじ、二二二
- || 真 字、二ハ
- || 真 字、二話
- || 湯 高



ここまで



ほっこり
とことん
…三



ほっこり
湯高
…四

人犬…ほっこり	一 庭の精
上末…ほっこり	二 隣の棟
由王…とことん	三 庭の精葉
さる…湯高	四 隣の棟葉

つまり

ネット世界の四語は：

井字の「いろは」 …… ほっこり

井字の「阿伊宇江於」 …… ほっこり

色葉 …… とことん

縦の詩 …… 湯高

居天

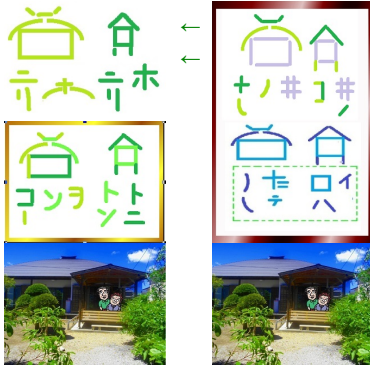
居天 || 「二大」 ノロ ロ十

|| 「夷王」 の二二 二二和

|| 「夷王」 のイへ 四話

|| 「夷王」 の家 四話

|| 「もへじ」の家 四話



ネット世界の四語

井の十字 || 井の「いろは」

井の五 || 井の「阿伊宇江於」

色葉 || 色葉

縦の詩 || 縦の詩

井の十字 || ほっこり

井の五字 || ほっこり

色葉 || とことん

縦の詩 || 湯高

高天が原

高天が原

手鎌が原 (手鎌 || たかま)

← ←

手の鎌で刈り取る草の原っぱ

草 || 阿伊宇江於 (萬葉假名)

草 || あはさらやまかわたな (いろは)

つまり

草 || 草字

高天が原 || 遠い世界の草字

|| 十井世界の草字

手鎌が原 (詳解後述)

は — さ字 — ら

な於 — あ阿 — や

た江 — か伊 — ま

— わ —

天地を動かす『詞』

詞 || 二口、三口、
 || 十二、三ワシ
 || 十井、三和じ
 || 十井、三和字

『十井の字』（手鎌が原の草字）

は || さ字 || ら
 な || 於 || あ阿 || や
 た || 江 || か伊 || ま
 || わ ||

『十井の三和字』

あ || あ + 阿 + は
 め || ま + 江 + は
 つ || た + 字 + は
 ち || た + 伊 + は

母音の配置

阿 || 一ノ乃口
 || 十乃口
 || 井乃口

伊 || 一ノ左

|| 阿ノ左

字 || 一ノミキ

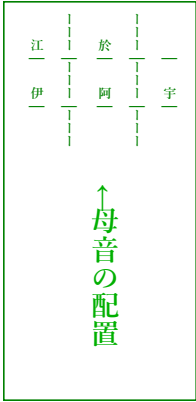
|| アノ右

江 || イノ右エ

|| イノ上

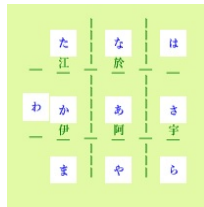
於 || ナノヲク

|| なの奥



子音の配置

あめつち || あ行
 ほしそら || は行
 やまかわ || さ行
 みねたに || し行
 ← || ら行
 ← || や行
 ← || ま行
 ← || かわ || かわ行・わ行
 ← || 三音 || あ || あ + 阿 + は
 ← || た || た行
 ← || な || な行



安心

安 || あめつち

|| あ



安心 || あめつち || し、ハ

|| あ || 二二、ワ
 || あ || 井、ロ



安心 ↑ ↓ 不安

安心



不安



ネット時代の
世情の不安の拡がり
ここに有り



「少し話が飛びます」

太陽とその化身

太陽：ほっこり



ほっこり 燃えてゐる

その化身



ほっこり 萌へてゐる

太陽の化身



太陽の化身

→

精の種であるが

櫟の種も同様 太陽そっくりだ

ところが この太陽の化身の

庭鶴の実に気づかず

真っ赤な嘘月

禍の火種

禍津日神を

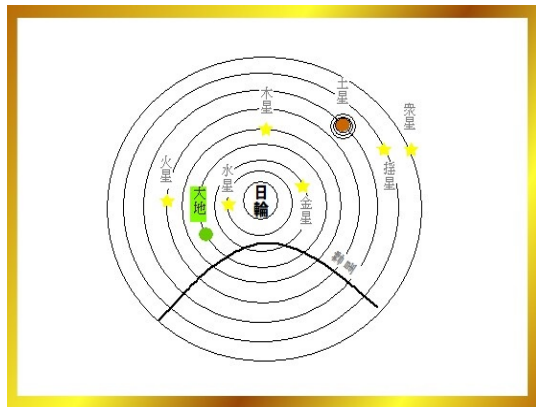
太陽の化身と誤認する心学が

幕末に現れ

赤鬼を皇国とする心学が登場

佐藤信淵の『天柱記』である

佐藤の日輪



佐藤は頑なに

太陽＝日輪と書いた

太陽を一度も太陽と書かず

日輪といふ表記を買いた

西郷の最期

「ご一新」の中心人物の西郷が
最後は「ご一新」の政府と闘ひ
最後は犬を連れた人となる

西郷も最後は

「天地之詞」に帰ったヨ

そんな

知る人ぞ知る伝承ではなかったか

あめつち

ほしそら

やまかわ

峰谷

雲霧

人犬 || 犬連れた人

略

密教、役割と終了

もし「完訳」が世に出る前に
未完の「天地之詞」の翻訳が
出てしまったら…

その後、完成された和訳は出て来ない
そこで「完訳」が登場するまで

「密教といふ形」が必要だった

ところが今「完訳」が登場したので

密教の役割は終了

尊徳たちの和王の和訳

尊徳・芭蕉・南無派の解釈は
① 教典と② 天の和字とが必要です
教典

あめつち

ほしそら

やまかわ

みねたに

雲霧

室苔

人犬

上末

由王さる

遠不世与

江乃於

奈禮居天

尊徳たちの和王和訳

へのへのもへじ
へのへの萌へ字



この『萌へ字』 || 天の和字

そこで教典の天を和字に置換(をまかへ)

奈禮居



風香る勢に乗って『へ』を探すと…

一 || 奈

そこで『奈』を離合和訳すると…

天の和字
へ

尊徳たちの『奈』

奈 二 大小

|| ころを棒 大地

|| 好望大地

その意味

好望 || 景色の眺めの良い

大地 || 二ハ地

|| 庭 地

たとへば



好望大地

だから 尊徳は かう言つた

貧乏を免れんと欲せば

庭の草を取り 家屋の掃除をせよ

尊徳の心田

尊徳の独自用語に

心田の開発がある

尊徳の心田推測以下：

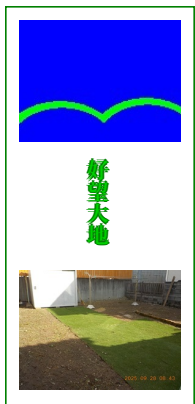
心田 || 田 ハ、し

|| 十ロ 目、詩

|| ニワ 目、詩

|| 庭 目の詩

|| 好望大地 目の詩



大文字焼



『煌々茫茫』と燃える『大』の『地』

『煌々』 『大地』

『好望』 『大地』

好望大地

好望二ハ地

好望庭地 (|| 好望大地)



犬も歩けば棒にあたる

あめつち

ほしそら

やまかわ

みねたに

雲霧

室苔

人犬

上末

由王さる

遠不世与

江乃 於

奈禮居天

犬(文字)を次に進むと
上 || 一 二 (棒) 当たる

弘法も筆の誤り

弘法大師

←←

好望大地

阿弥陀仏

阿弥陀？

←

あみた籤

←



大散

好望大地

奈無

奈無 || 奈ム

|| 奈、し

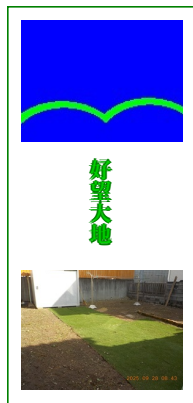
|| 奈、四

奈 || 二 大地

二 || こ (文字) を棒 (にした字)

|| こを棒大地

|| 好望大地 (奈の四)



密教の役割

「天地之詞」が

密教として史上に登場したお蔭で

上記の誤訳が この世に定着しなかった

また 知る人ぞ知る 「秘密の教典」で

あったことは

忠臣蔵の暗号として

利用されたことでもわかる

問 答

山？ 川

天地

星空

山川 ↑

峰谷

略

昔今の真言

昔の真言 || 古代清明心

大日のらい

清く明るく

とことん豊

今の真言 || 本心良心

ほっこり

とことん

ほっこり

湯高

真言

真言 || 真字之「言」

|| 真字の「二二ロ」

|| 二二ロ

|| こしろ

|| こしろ

|| 腰炉

昔も今も「真言」は「腰炉」

腰炉温高



異なる所は その音色

昔の真言

真言 || 十二ロ 一ハ 二二ロ

|| 十二ワ 一話 ナナ一コ

|| 一二話 一話 七ノ三

|| 奈禮居天 一話 七ノ三

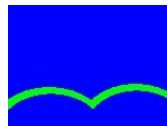
奈示 || 大日のらい

豊 || 清く明るく

居天 || とことん豊

昔の絵詞

のらい ↑ 大日



大日 || 二しノ日

|| こしの日

|| 腰の日

のらい || しろ、の

|| 二二ろ、眼

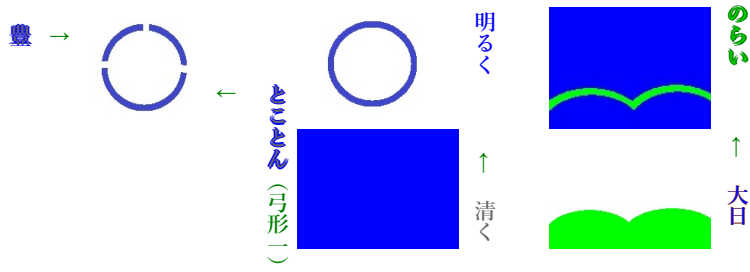
|| こころ、眼

しろの

い

腰炉温高





昔の絵詞

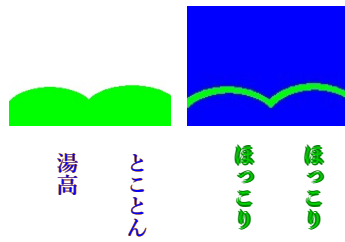
令和の真言

真言 || 眼十二ロ 一話 一ハ
 || 眼十二レロ 一話
 || 眼十こしロ 一話
 || 眼十腰 炉 一話

真言 || 十二ロ 一話 二ロ 二
 || 十二ワ 一話 十二二ハ
 || 十二話 一話 十四 話

奈示 || 絵目・ほっこりほっこり
 豊居天 || とことん湯高・山山の聲

令和の絵詞



令和の真言字解

真言 || 十二話 一話 十四話
 || 奈禮居天 一話 十四話

奈示 || 大 示 示

|| 二ハ 一、ハ二 同上
 || ヘ目 しこり 〃
 || 絵目 二二こり 〃
 || 絵目 十八こり 〃
 || 絵目 ホこり 〃
 || 絵目 ほっこり ほっこり

し、し

四大の古名

四大 || 大しノロ

|| 題しの二二

|| 題しの四

題 || 天地之詞

題し || 詞

|| 詞の四

四大

詞 || ロ ー、ニ・二二ノ

|| 二二ト リ・こころ

|| 十取 ・此 妬

|| 草取此 妬 (詞の四)

草の音色

草 || 十 十 十日

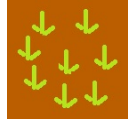
|| 二二二二二二二二ノ

|| 十ハこりニハ一ワ

|| ホ こり二話一話

|| ほっこり二話一話

|| ほっこりほっこり



ほっこりほっこり

平和

平和 || 十ノハノ 二一ハ

|| 二二二二二二二二ノ

|| 十トトリ此 妬の 三葉

|| 草 取 此 妬の 三葉

平和 (草取此 妬の三葉)

大地の草

庭の精葉

隣の櫟葉



ほっこり ほっこり : 大地の草

とことん : 庭の精の葉

湯高 : 隣の櫟の葉

金

金 || 十ノし・人 二

|| 二二二の二二・しノハ

|| ロの十・二二の葉

|| 妬の草・十二の葉

|| 妬の草・王の葉

王の葉 (詳解下段)

庭のくぬぎ葉

隣のくぬぎ葉

王の葉

への もへの のどんぐり(眼)

への のもへじ
しし どんぐりの もへ、し
二二二つるはみの もへノノじ
二二二ハくぬぎの もみ じ
二個庭 くぬぎの もみじ
二個庭 くぬぎの 黄葉

庭の精葉
隣の様葉

大事なもの

和王曰く

大事な二個庭くぬぎの葉っぱ



じ 大事

へ 二

も 二個庭

の 二 二個庭

の 二 二個庭

へ 二 二個庭



も 二 二個庭

二 二個庭

二 二個庭

二 二個庭

の 二 二個庭

二 二個庭

二 二個庭

だから

「枯れ葉」を大切に取って置き

「時機」が来たら

「葉狩り」して「此炉」に納めます



和王曰く

和王曰く

草取此炉でこの世は平和



大し 題し

二 詞 草取此炉 (四大古名)

へ 二 山山 (へ 山の姿詞)

二 出 二 出

このし、この世ハ

二 二 二

の へ

二 二 二

二 二 二



和が国の平和運動

平和

- || 十 口 ハ ノ 二 十 八
- || 二 二 三 三 三 転 の 三 葉
- || 十 十 十 十 此 炉 の 三 葉
- || 草 取 此 炉 の 三 葉



大地の草
庭の精葉
隣の樅葉

ほっこり ほっこり
とことん
湯高

草取事業 始めました

私塾鶴羽實は

戦争危機を回避するために

草取事業を始めました

一般的には単なる草取りですが

今まで述べて来ましたやうに

草を刈り取り

刈り取った草々を

四大の墓地に納めることは

「新しい平和運動」であります

平和運動としての草取りであるため

草取事業は、ゴミ処理含め

時間単価税込八百円で請け負ひます

昨年お試して始め

本年より本格的に草取事業開始

草取事例

草取前



草取前



開始三十分



十時間後



草取後



九時間後



新しい平和運動

開始一時間



七時間半後



この新しい平和運動に

ご協力いただける方は

是非 庭の草取りを

私塾鶴羽實にお任せ下さい

詳しくは

〇五三八一三三〇二七三

私塾鶴羽實まで

自薦拙論

史実淡々

- 幕末近代の萌芽.....
- 中国侵略から開戦まで.....
- 大東亜戦争の足跡.....
- 竹島問題.....
- 大東亜戦争の教書(混同秘策).....

最新医療を探る

- コロナ騒擾に学ぶ.....
- 癌の研究.....
- ビタミンD.....

天地を動かす『詞』

- 十井文字字母表.....
- 母父神社からの「お便り」.....
- くぬぎの手紙.....

あとがき

歴史はラックスマン来航から
大東亜戦争敗戦までを見直し
心学は 和をを教祖にし
教典を『天地之詞』にして探索

歴史は これから

朝鮮侵略

日清戦争

日露戦争

満州侵略を追加

心学は

「本心良心」として完成させた

もし 新しい国造の大事業の一端を

私塾鶴羽實が 請け負ふことあらば

新党 草取此焔

新国 本心良心の私案を具現化させたい

本心良心

本心 大十、し、ハ

大二三、三三ノシ

大ち、十の詩

大地、草の詩

ほっこりほっこり

三三

良心 し、し、白、ノ、ハ、し

二二三二白、ノ、ハ、二ハ

二二二ハくぬぎノ、葉、二話

二二個庭、くぬぎノ、葉の二話

庭のくぬぎ葉、とことん

隣のくぬぎ葉、湯高

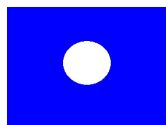
異心暴力革命

異心暴力革命で

紺 日輪の絵詞を失ひ

古代清明心を失ひ

本心良心も失った

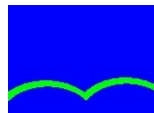


ほっこり

ほっこり

とことん

湯高



代はりに残ったものは

「禍の火種」から生まれる

「真つ赤な嘘月」だけとなった

どうしたら いいのか…

和玉「もへじ」は言ふ

草取此焔でこの世は平癒

私塾鶴羽實は この教示に従ひ

草取事業を新しい平和運動として開始

令和八年五月十九日

私塾鶴羽實 塾長 岩田修良

